

今後の技術戦略の検討について

平成30年3月15日

(1) 検討の状況

(2) 今後の検討

検討会メンバー

| | | |
|--------|--------|---|
| | 内田 義昭 | KDDI株式会社 取締役執行役員専務 技術統括本部長 |
| | 江村 克己 | 日本電気株式会社 執行役員常務 |
| | 澤谷 由里子 | 東京工科大学大学院バイオ・情報メディア研究科 教授 |
| | 関谷 勇司 | 東京大学 情報基盤センター 准教授 |
| | 田中 邦裕 | さくらインターネット株式会社 代表取締役社長 |
| (座長代理) | 中尾 彰宏 | 東京大学大学院情報学環 教授 |
| (座長) | 長谷川 博和 | 早稲田大学大学院経営管理研究科ビジネススクール 教授 |
| | 眞野 浩 | コーデンテクノインフォ株式会社、EverySense,Inc. /C.E.O. |

検討の項目

- 将来的な社会課題の解決にむけたICT分野の技術課題
 - 長期的な社会情勢等を踏まえて研究すべき技術課題
 - 社会インフラを支える情報通信ネットワーク基盤技術
 - 多様な分野でのICT利用を促進する利活用技術
- 技術開発・社会実装の推進方策
 - 技術面での動向(NW機能のソフト化、技術開発のオープン化等)を踏まえた技術開発推進方策
 - 様々な利用ニーズに的確・迅速に応えるためのアジャイルな手法の取り込み
- 業界横断的な取組、国際連携・グローバル展開等のあり方
 - コミュニティ/エコシステム/「場」の活用
 - 最初からグローバルであるための方策、標準化のあり方

第1回

日時: 12月18日(月)12:30～14:00

参加者: 中尾座長代理、内田構成員、江村構成員、
澤谷構成員、関谷構成員、眞野構成員

内容: 情報通信技術をめぐる現状と課題

- ・情報通信技術をめぐる現状と課題(事務局)
- ・各構成員から問題意識等を説明(各構成員)

第2回

日時: 1月16日(火)16:00～17:30

参加者: 長谷川座長、中尾座長代理、内田構成員、
江村構成員、澤谷構成員、田中構成員、眞野
構成員

内容: 技術開発方策について

- ・2050年以降の世界について(事務局)
- ・「コードファースト・サービスファースト」「コミュニティ・個人へのフォーカス、イニシアティブを取る人への支援」について(田中構成員)
- ・デザイン思考的アプローチ、Living Lab等(澤谷構成員)
- ・OSS活用における課題等(内田構成員、KDDI阿野様)

第3回

日時: 1月31日(水)10:00～12:00

参加者: 長谷川座長、中尾座長代理、宇佐見構成員
代理、江村構成員、関谷構成員、眞野構成員

内容: ネットワーク技術分野について

- ・ICTの30年前・現在・30年後について(MRI中村様)
- ・アーキテクト育成(関谷構成員)
- ・ネットワーク技術分野で重点を置くべき課題(中尾座長代理)

第4回

日時: 2月20日(火)(13:00～15:00)

参加者: 中尾座長代理、内田構成員、関谷構成員、
田中構成員、眞野構成員

内容: 国際連携・グローバル展開等について

- ・研究開発の国際連携の在り方について
(Elsevier社Anders Karlsson様)
- ・標準化の取組・人材育成について(眞野構成員)
- ・中長期的課題の議論における着眼点について
(NRI梅屋様)

第5回

日時: 3月5日(月)(15:00～17:00)

参加者: 長谷川座長、中尾座長代理、宇佐見構成員
代理、江村構成員、関谷構成員、田中構成員、
眞野構成員

内容: 技術開発・社会実装の推進方策について

- ・ICT分野に求められる技術開発方策(神戸デジタル・
ラボ村岡様)
- ・NICTテストベッドの活用(NICT原井様)
- ・ビジネスモデルの作り方(インテック中川様)

ソフトウェアで実現・制御
される領域の拡大



ハードウェアとのバランス

- ・ 技術開発のハードルが下がり、組織だけでなく「個人」が活躍可能に
- ・ パーツ化、コモディティ化が進展
- ・ 迅速、柔軟なシステム開発が可能
(コードファースト、サービスファースト)



- ・ 技術開発や標準化においてオープンな形態の活動が増加(コミュニティ)
(例)ネットワーク領域でのOSS活動
- ・ コミュニティ活動においては、熱意、ビジョンへの共感が人を動かす

試す、失敗できる環境

- ・ 何をしたいのかの課題発見力と、試行錯誤しながら解決しようとする力
- ・ すぐにやめない、継続的支援
- ・ 規制やルールのあり方も大きく影響

実験できる環境、Living Lab
失敗を許容する雰囲気、態度、評価

アーキテクト/デザイナー

- ・ ニーズと技術(ツール)を一緒に作りあげていくアプローチ
- ・ ツールを組み合わせるシステム、サービス等をアジャイルに組み立てる能力や目利き力が重要に

イベントやプロジェクトで経験を積む
経験者によるOJT
人材共有プール

やりたいことを持つ

- ・ 熱意、想い、ビジョン等を持って、将来に実現したい姿を描くことが重要
- ・ アイデンティティ、日本人としての本質も強く影響

ムーンショット、非連続、大きな目標、夢を示す、ワクワク感を持たせる

(1) 検討の状況

(2) 今後の検討

検討の目的

ICTを最大限に活用して社会的課題の解決と経済的発展の両立を図るべく、ICTの開発・実用化の加速、技術開発成果の迅速・確実な社会実装、グローバル展開を推進するための中長期的な技術戦略等の検討を行う。

主な検討事項

- 国として取り組むべき研究開発課題について
 - 社会の情勢やニーズ等を踏まえて取り組むべき分野、課題
 - 長期的視点で研究開発を推進すべき分野、課題
- 技術開発から社会実装までの推進方策について
 - 課題の特性に応じた研究推進スキームの在り方（課題指定型、公募型）
 - 技術開発、人材活性化、成果展開の一体的な推進方策
 - 標準化活動の位置づけと推進方策 等